

来年 5 月の「広島サミット」控え、衆院解散・総辞職なし

岸田文雄内閣に対するマスコミ各社の 12 月支持率は 30%台の前半で前月より大きく低下しており、その反比例で不支持率の急増傾向は止まらない。10 月以降の 1 ヶ月で 3 人の閣僚ドミノ辞任と続き、今回の「防衛増税」が影響したことは確実だ。政府・自民党幹部には「国民には防衛費を増やすことへの理解はあるが、それを増税で賄う事には拒否反応が強い」と分析、内閣支持率の低下は承知の上で「これだけで済んだのならまだ救いがある」（首相周辺）との受け止め方だ。しかし、内閣の不支持率の右肩上がりは顕著である。今回の不支持率は 57%で、これは不人気政権だった菅義偉と 10 年前に成立した第 2 次安倍晋三内閣を通じて最低だった。このまま内閣支持率の回復がなければ、来年 5 月末、岸田首相の地元で開かれる「広島サミット」を待たず、統一地方選挙前に総辞職してもらいたいとの声が一気に台頭するかもしれないが、岸田氏は自分の立場が変わる危険なことはしない筈だ。今回の朝日新聞社世論調査では面白い設問がある。自民党の茂木敏充幹事長、高市早苗経済安全保障担当相、河野デジタル担当相、林芳正外相、菅義偉前首相、石破茂元幹事長らの名前を出して「岸田首相の後継者として誰が相応しいと思うか？」と尋ねている。結局、一番多かったのは「この中にはいない」である。

小泉進次郎の名前がなかったものの、朝日新聞社は小泉氏が「ポスト岸田」のイメージに無いとの判断であろう。岸田氏の「総理の資質・器」論については、これまでの失政を見る限り誰しも考えることだ。しかし、衆院小選挙区制に移行して約 20 年間、自民党は「次の国政選挙で勝てる総裁かどうか」で新総裁を選んできた。後継者の育成などにほとんど力を入れてこなかった。小泉純一郎氏や安倍晋三氏らが長らく総理大臣・自民党総裁として長年国政選挙を戦い勝ってきた事情もある。現在、自民党内の政情は麻生太郎副総裁と茂木幹事長が岸田氏を支持。また「反岸田」と見られた菅義偉前首相と二階俊博元幹

事長が岸田首相の会食招待を受け「二人に励まされた」（首相周辺）という。また党内最大派閥（党内4分の1を占める）の「清話会」は塩谷立会長代理が若手の大反対で会長しようかできないまま。松野博一官房長官、西村康稔経済産業相、萩生田光一政調基調が争っているが、いずれの候補も「後継会長・指導者としてまだ経験不足だ」（閣僚経験者）とされ、いまだ星雲状態が続いている。つまり「次期総裁に相応しい人材が払底しており党内の敵を気にしなくても良い」（党内長老）状態なのだ。一方、来年4月の統一地方選だが、「国政と関係なしで逃げ切れる」（自民党選対幹部）が一般論だが、今回の「防衛増税」で萩生田氏は統一地方選挙前の増税は拙いと主張し論陣を張った。このため通常国会での与野党論議の結果、岸田氏が追い込まれる時にヴラフ（単なる脅し）として衆院解散をちらつかせたり、来年度予算案を出して総辞職を示唆する場面はあるかもしれない。しかし、来年5月末の広島サミット前に衆院解散・総辞職はしないというのが、岸田首相の基本的政権運営だと確信している。（憲）



勝池レポート      アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫  
「BRICS, GAFAM から INDIA へ」



BRICS



GAFAM



INDIA

今から20年ほど前、「BRICS」という言葉が流行り出しました。5つの新興国、ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカの英語の頭文字を並べた造語です。有力な投資先の代表として暫くは注目されましたが、その言葉はもう死語になったようです。今では、各国の経済の成長力に差がついてきたため、「BRICSのなかでは『I』だけが残った」と言われています。つまりインド経済の成長力が際立ってきています。

一方、最近では多国籍企業や世界の投資家は、ロシアのウクライナ侵攻や中国のゼロコロナ政策などを受け、両国から投資を引き上げています。BRICSの中の投資リスクにも大きな差が出ています。この点でも、インドの安定性が再認識されています。

今から10年くらい前、「GAFAM」という言葉が持て囃され出しました。アメリ

カの大企業 IT 企業、グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン、マイクロソフトの 5 社を表す用語です。5 社の時価総額の合計が、東証 1 部上場の 2,170 社の合計を超えたという大きなニュースになりました。

しかし、最近ではこれら代表企業の成長力に差が出ています。アメリカの S&P500 指数を牽引してきたこれらの企業の株価のほとんどは、誰もが信じられないほど下落しました。GAFAM という言葉も死語になりつつあるようです。

「BRICS」も「GAFAM」も、株式市場で人気化した一つのファッションでした。元々何十年も続くスタイルではありません。人気が離散しやすいという点では、「AI」も「ESG」も同じです。ファッションは追いかけても資産形成に繋がりません。長期の資産形成に大切なのは一貫したスタイルです。

そのスタイルで、世界が今熱い視線を送っているのがインドです。インドは、人口、テクノロジー、そして民主主義という長期的な経済成長を支える強固なスタイルを持っています。更に、英語話者の増加によるインド人の国際的な影響力の高まりにも世界は目を見張っています。

インド株式市場の SENSEX 指数は 11 月に史上最高値を更新しました。世界の経済が、新型コロナウイルスのパンデミックやウクライナ戦争による暗闇を抜け出せないでいる中、そして世界の株式市場が、アメリカ金利の上昇で調整を余儀なくされる中、インド株式の堅調さが抜きんでています。

その背景には投資家心理の変化があります。インドの投資家は自国の未来に自信を深め株式市場に参入しています。多国籍企業や世界の機関投資家にとっても、長期で有望な市場が欠乏してきている今の世界で、投資先としてインドの重要性は増しています。

皆さんにとっても、世界経済が長い低成長時代に入っていくこれから、このインドというスタイルを、お守りのように金融資産の一部に備えていることが、金融資産の未来を安心してしてくれると信じます。長い「INDIA」の時代はまだ始まったばかりです。

★  
★★

### ムッシュ望月の今月の相場展望+映画

映画は世につれ、世は映画につれ、世相を反映するのが相場

★  
★★

#### 1、相場展望：スタートは緩やかな上昇から

旧年 22 年は新型コロナが収まらないなか、年初からインフレに対応するため米 FRB が金利の引き上げを表明、2 月にはロシアがウクライナへ軍事侵攻、これに伴い資源、食料価格が高騰し、サプライチェーンの混乱や半導体不足が続き、世界経済は伸び悩んだ。世界経済のけん引き役である米国、中国の経済も苦戦を

強いられ、とりわけ米FRBがインフレ退治を優先した(6月から4回連続で0.75%引き上げ)ことで景気後退、すなわちスタグフレーション(不景気の中の物価高)懸念から世界の株式市場は9月まで下落基調が続いた。その後、パウエル議長が11月の講演で「早ければ12月にも利上げを減速する可能性」を示したことで市場に安心感が戻って来た。東京市場は21年9月の30670円から22年3月に安値24717円まで19.4%下落をした。18年10月の高値24270円を割り込みに反転したことで、中期的な上昇トレンドが崩れていない事を確認した。米金利上昇に伴い大幅円安1ドル=150円を記録したが、FRBの金利引き上げのペースダウン期待により、急激な円安は収まり円高に反転した。市場は、金利問題は織り込み、今後は景気後退を織り込む局面入りに。IMF(国際通貨基金)によると、2023年の日本経済はGDP成長率で1.6%と、G7の中で最も高い見通しということで、世界経済の減速の中、比較的堅調と言える。2022年度の予想EPSは2200円と2年連続の最高益、2023年度が3年連続の最高益更新となれば、予想EPSEPSが2350円前後となり、割安感が目立つことになる。長期投資家のバフェット氏は2020年8月に5大商社の株を5%超まで買い増し、2022の11月21日時点で6%まで買い増したことが明らかになった。そのバフェット氏は、「日本の未来と5大商社の未来に参画することが楽しみ」と発言しており、2023年は日本株は中段持ち合いから上放れても良い局面に来ている。「卯」年は、戦後6回の相場でも、4回が年足陽線(上昇)、2回が陰線(下落)と比較的期待出来る年回りである。金利引き上げによる逆金融相場も終わりが見え、景気の悪さが見えだし逆業績相場入りしているだけに、下値不安は残るものの、景気の減速のスピード次第では年後半には、金融相場入りも見えてくることであろう。

追伸:12月20日の日銀金融政策決定会合により、想定したより早く金融政策の変更があり節目の130円まで円高が進み、株式市場は長期低迷の銀行等金融株を動きに転じている。

今月の映画:「ラーゲリーより愛を込めて」

11月は13本の映画を観て通算111本となり、年間目標の120本は射程圏内となった。11月に印象に残った映画は「すずめの戸締り」「ミセスハリス、パリへ行く」「ザリガニの鳴くところ」「ある男」である。年末なので、今年の映画界の状況を振り返ってみたい。興行収入のトップは185.4億円の「ONE PIECE FILM RED」、2位は138億円の「劇場版呪術廻戦0」、3位は「トップガン・マーベリック」の134.6億円となっている。その他のヒット作は「名探偵コナン ハロウィンの花嫁」「ジュラシックワールド/新たなる支配者」「キングダム2、遙かなる大地へ」「シンウルトラマン」など年間興行収入の上位10作品は興行収入40億円を超える程好調な1年であった。現在は新海誠監督の「すずめの戸締り」が順

調に客足を伸ばし、興行収入の 100 億円は確実視されている。20 年、21 年と落ち込んでいた年間総興行収入もコロナ禍前の水準に戻ることは間違いのない状況にある。個人的な今月のベスト作品は「ラーゲリーより愛を込めて」で、同作品は第 35 回東京国際映画祭のオープニング作品として上映され、大きな反響を呼びました。辺見じゅん氏のノンフィクションを瀬々敬久監督のメガホンで映画化されたもので、主要キャストも、二宮和也、松坂桃李、中島健人、桐谷健太、安田顕、北川景子ら日本の映画界を代表する面々が勢ぞろい。また史実を描いているだけに生々しいものがある。シベリア抑留は、もう死語に近かったが、ロシアのウクライナ侵攻により、また思いださせるものがある。この抑留では多くの日本人が命を落とし、その数は何万人もいたというから、残酷そのものと言える。それだけに、演出効果か「これでもか」何度も泣かせにくる、しかし、史実に裏付けられているだけに、そこに破たんはない。邦画のアカデミー賞作品賞に個人的にはノミネートしておきたい。

★★

### 23年01月以降のイカスのイベント情報

★★

#### 株式投資勉強会：

23年01月+02月のイカス倶楽部スケジュール（2023年12月06日）

01月04日（水）：15：00～花咲投資クラブ、イカス事務所

01月10日（火）：16：00～サロン・ド・望月（株式投資）イカス事務所

01月12日（木）：13：30～日比谷会投資クラブ、イカス事務所

01月21日（土）：15：00～スペリオール投資クラブ、イカス事務所

01月26日（木）：15：00～東京3Eクラブ、イカス事務所

02月01日（水）：15：00～花咲投資クラブ、イカス事務所

02月09日（木）：13：30～日比谷会投資クラブ、イカス事務所

02月14日（火）：16：00～サロン・ド・望月（株式投資）イカス事務所

02月16日（木）：15：00～東京3Eクラブ、イカス事務所（23日休日）

02月18日（土）：15：00～スペリオール投資クラブ、イカス事務所

#### イカスのイベント：

イカス夏の交流会：2023年6月8日午後6時、外国特派員協会、

司会：三宅あみ氏

ミニコンサート：オペラ歌手：首代明子氏、ピアノ演奏：〇〇氏

01月14日（土）午後2時から第3回 講師：山本博幸（帝京大学教授、元野村証券国際部、フランス、バーレン、ベルギー、韓国25年駐在）世界の金融経済の裏話・投資術を披露します、イカス事務所

**サロン・ド・知久（交流会）**

第23回：23年01月25日（水）：14：00～16：00、講師：市川光男（元ビクター国際部、現フランス倶楽部散歩の会主催、ユーチューバー）、「生涯学習 一日一生」 イカス事務所

第24回：23年02月21日（火）：14：00～、講師：荒井凜（生き生きヘルスコーチ）「体の仕組みを知る」 イカス事務所

☆イカス投資塾・経済セミナー参加費 3000 円、知久サロン参加費 2000 円

★無料メルマガ毎月 25 日配信

★有料メルマガ毎週（日）配信、年間 24000 円、3 ヶ月 6000 円

★ツイッター：「ムッシュ望月」毎日更新（政治経済・株式投資・映画）

☆イカス投資塾・経済セミナー参加費 3000 円、知久サロン参加費 2000 円

[info@toushi-club.com](mailto:info@toushi-club.com) <http://www.toushi-club.com>

☆「10代で見につける株式投資の基礎知識」電子書籍発売中（アマゾン）

セブンイレブンネット書籍：<https://7net.omni7.jp/detail/>